

楽園は創るもの

探検家で、医師の関野義晴さんという方がいらっしゃるそうです。
人類の起源を訪ねて南米大陸から人類発祥の地アフリカまで、5万3000キロメートルを自転車やカヤック、カヌー、ラクダや馬で旅した人です。

大学時代から南米を旅し、旅先で世話になる先住民の役にたつため医者になって、41才の時に外科医長の職にあった病院を退職して、旅をはじめたのだそうです。

今回の旅は8年3ヶ月におよび1年の4分の3を旅し、4分の1は帰国して資金の準備や原稿の執筆、写真の整理などにあてたそうです。

なぜ旅をするのか？それは「われわれはどこからきたのだろうか？われわれは何者なのか？そしてどこへ行くのだろうか？」という疑問の答えを探ることが目的だったといえます。

旅の途中で出会ったアフガンのイスラム教徒の欲のなさには、特に影響を受けたといえます。「羊を200頭くらい飼っている家族に会った時、『もっと羊欲しいでしょう』と聞くと『いや、これでハッピーだ。これは神が与えてくれたものだから、これ以上は要らない』とほんとうに幸せそうなんです。」「彼等は死んでから天国に行くために現世で欲望をコントロールして生きているんです。それに比べ僕は科学技術を駆使して、便利で快適な生活をしたいとか、長生きしたいなんて思っている。どちらが幸せかわからないけど、彼等の生き方はいいな、と思いました。」と関野さんはいっています。

最終目的地の東アフリカ ラエトリには360万年まえの人間の足跡が残っているそうです。そこに到達しても旅の間、問い続けた疑問の答えには出会えなかったそうです。そして、ある人から聞かれた「これぞ楽園と思った所はありますか？」という質問には「楽園はない」というのがいまの関野さんの答えだそうです。そして「おそらく、自分が生まれたところ、育った場所、家族がいる場所が一番楽園に近い、楽園は探すものではなく創るもの。いまいる自分の場所を楽園にするしかない。」というのが旅を終えて祖先達から受け取ったメッセージだそうです。

参考文献 『月刊 致知』

篤く三宝を敬え 三宝とは仏、法、僧なり
仏.....いのちの親
法.....不可思議な力
僧.....仲間達

ホームページが新しくなりました。

どうぞ、みなさんで見てください。

<http://www.muryoji.net>



一皿精進

材料

- 柿、、、、、、大4個
- 豆腐、、、、、、2丁
- キウイフルーツ、、1個
- こんにゃく、、、3g0
- あんず、、、、、、4個

材料に海老・ほたて貝・白身魚を使い、酸味を加えたタルタルソースで和え、器がわりの柿を食べられるようにオーブンで焼き上げるのも美味しいですよ。

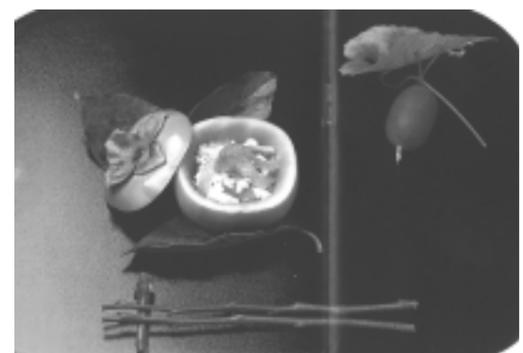
Vegetarian Cooking

浄土宗『かるな』より抜粋

水菓子あえ

作り方

1. 大きめの柿のヘタを水平に切り取り、果肉をくりぬく。
2. 柿(くりぬいた果肉)・キウイフルーツ・あんず・こんにゃくをそれぞれ細かくきざむ。
3. 十分に水をきった豆腐にみりん・砂糖・酢・白醤油・ごま油を加え、味を調える。
4. 3.に2をざっくりと混ぜ合わせ、1.で果肉をくりぬいた柿に盛り付ける。



念佛者の心(十)

奈良県香芝市 正福寺住職 別府 空由上人

附

元祖大師もし、百年生きられていたならば、又、再びこの世に来られるのなら、又、浄土にてこの世の念仏者を見護っているのなら、今もこの世と結ばれた心の糸がしっかりと

取捨選択の学佛精神の起源は九才、叔父得業に念仏が遺言の答と示された時、瞬時に深く染むことありてこそ選択の芽、心の芽が生じたのである。この教は答に添うや否や、およそ目的(遺言)と答(念佛)を持って学ぶ人に、全の教とは同時に資料としてであつた事である。一段の高みから見ることが出来れば、まさに選択の自由があつた事である。

み、浄土の因縁は熟してゆき、三昧を發得して奇瑞が顕われたということ。は、これを目の当り、信仰の真実を見る縁に生まれ合わせた人達は幸せな人達だと思える。今の世では、この様な人との出会い、信仰の真実はないのである。元祖様の心の真実を知れる人と口称三昧發得迄行を信じられる人に出にくい社会の仕組み・時代の流れではなかるか。およそ学問の形式を用ると新しい頭脳を待たねばならず、行を行ずるには裏付ける経がなければ道に迷う、共に空間より何らかの力の及び来ることを念じなければならぬであろう。

いのちの幾度の生まれ変わりにては、どう生れ、どう死するかわかりませぬ。人間に生れて煩惱の尽ることはありませぬ。どうして、この事にめざめて、生る事の大切さにめざめないのでしょうか。生る事の大切さを知つたならば、この今の一時に自らを打ち打て励まして、お浄土に生れる事を願ひ求めるべきです。

中夜無上偈
諸衆等聽說中夜無常偈
汝等勿抱臭屍臥 種種不淨假名人
如得重病箭入體 衆苦痛集安可眠
諸衆等聽きたまへ、中夜の無常の偈を説ん
汝等臭屍を抱きて臥こと勿れ、
種々の不淨を假りに人と名づく、重病を得箭の體に入るが如し、衆の苦痛集る安ぞ眠る可き

日没無常偈

諸衆等聽說日没無常偈
人間忽忽營衆務 不覺年命日夜去 如燈風中滅難期
忙忙六道無定趣 未得解脫出苦海 云何安然不驚懼
各聞強健有力時 自策自勵求常住

諸衆等聽きたまへ、日没の無常の偈を説ん

諸衆等聽きたまへ、初夜の無常の偈を説ん

皆さんお聞き下さい。寝ている姿の定めぬい理法を述べます。

人間忽忽として衆務を營む。年命の日夜に去ることを覺らず。燈の風中に滅えなんこと期し難きが如し、忙忙たる六道定趣なし、未だ解脫して苦海を出ることを得ず、云何ぞ安然として驚懼せざる、各聞け強健有力の時、自策自勵して常住を求めよ。

皆さんお聞き下さい。初夜(ねむたくなる頃)の定めぬい理法(ことわり)を述べます。

私達は死ぬば腐る体を持つて時を空しく寝て過ごしてはいけません。いろいろの腐るものが集まって仮に人間の姿形をして生きています。魂に光明なき人は病者の如くであり、又、戦で負傷した人のようなものです。常に信仰なき人は煩惱の魔に魂が歪て、自分を誤解で、このような世の中の飯の身を、さも全てを得たが如くに、誤解で確信しています。どうか一日も早くこの様な意識の顛倒を除いて下さい。

私達は各人各人に生きて活いています。皆さんは、一日一夜に寿命の失つていくという事を感じていますが、生きるということ、生きていくということとはローソクの火が風に吹かれて消えずにがんばっているようなものです。

私達の煩惱は止むことなく湧き起つてくるものです。この世に生きとし生くるものども(山川草木大地人間動物鳥類等々)の繰り返しの生き死には尽きません。どうすれば、この煩惱を止め、生き死をなくすることが出来るのでしょうか。どうかねむることを考えずに、自分を強く励まして、一生懸命に心を磨いて何事にも迷わされない自分を育てましょう。

利剣即是彌陀號一聲稱念罪皆除

特別連載
元祖大師もし、百年生きられていたならば、又、再びこの世に来られるのなら、又、浄土にてこの世の念仏者を見護っているのなら、今もこの世と結ばれた心の糸がしっかりと

取捨選択の学佛精神の起源は九才、叔父得業に念仏が遺言の答と示された時、瞬時に深く染むことありてこそ選択の芽、心の芽が生じたのである。この教は答に添うや否や、およそ目的(遺言)と答(念佛)を持って学ぶ人に、全の教とは同時に資料としてであつた事である。一段の高みから見ることが出来れば、まさに選択の自由があつた事である。

み、浄土の因縁は熟してゆき、三昧を發得して奇瑞が顕われたということ。は、これを目の当り、信仰の真実を見る縁に生まれ合わせた人達は幸せな人達だと思える。今の世では、この様な人との出会い、信仰の真実はないのである。元祖様の心の真実を知れる人と口称三昧發得迄行を信じられる人に出にくい社会の仕組み・時代の流れではなかるか。およそ学問の形式を用ると新しい頭脳を待たねばならず、行を行ずるには裏付ける経がなければ道に迷う、共に空間より何らかの力の及び来ることを念じなければならぬであろう。

いのちの幾度の生まれ変わりにては、どう生れ、どう死するかわかりませぬ。人間に生れて煩惱の尽ることはありませぬ。どうして、この事にめざめて、生る事の大切さにめざめないのでしょうか。生る事の大切さを知つたならば、この今の一時に自らを打ち打て励まして、お浄土に生れる事を願ひ求めるべきです。

中夜無上偈
諸衆等聽說中夜無常偈
汝等勿抱臭屍臥 種種不淨假名人
如得重病箭入體 衆苦痛集安可眠
諸衆等聽きたまへ、中夜の無常の偈を説ん
汝等臭屍を抱きて臥こと勿れ、
種々の不淨を假りに人と名づく、重病を得箭の體に入るが如し、衆の苦痛集る安ぞ眠る可き

